

独自カリキュラム「探究」を探究する

未来を切り開く！ 探究力を育む学習

私たちの
3年間の探究学習を紹介します!!

町田総合高校では、地域の協力団体と連携して
「探究学習」に取り組んでいます！

- 「最近よく聞く、総合型選抜入試で大学受験に挑戦したい」
- 「保育系、食品系、栄養系、医療系などに興味がある」
- 「地域や近隣大学、企業など外部機関と関わってみたい」
- 「なんとなく興味あるかも！」... など

そんな皆さんにピッタリな、町総独自のカリキュラム
です。高校3年間で、しっかり学んでいきます！

3年
永井 彩希

3年
堀越 彩珠

探究冊子製作プロジェクト

町総の「探究」学習（地域連携・高大連携）

本校は、令和3年度から令和6年度まで、東京都教育委員会から「地域探究推進校」の指定を受けて、指定に伴う4年間で「地域連携」や「高大連携」を円滑に行うために、「校内組織の構築」、「探究学習の再構築」、「外部団体の協力体制の構築」を行いました。

町総の探究活動をご紹介します

皆さんは「変化の激しい時代」という言葉を聞いたことがありますか？これからの時代に必要な力とは何だと思いますか？今まで通り入試問題を解く能力を身に付けるだけでよいと思いますか？それとも違う能力も身に付ける必要があると思いますか？町田総合高校では、今まで必要とされていた能力に加え、「多様な他者との協働」「探究のプロセス」が大切だと考えています。これらの能力を、どのような学習を通して身に付けていくのかを知ってもらうために、パンフレットを作成しました。どうぞご覧ください。

地域探究 × 高大連携 × 課題研究



町総の「探究」
カリキュラム

3つの特徴

1. 地域に貢献する探究
2. 自分で創る独自の時間割
3. 多様な協力団体

町総の「探究」は、「キャリア教育」と「多様な選択科目」で学ぶことが特色です。「キャリア教育」では、「地域貢献」や「興味をもった学問」を題材にして課題発見・解決力、コミュニケーション力などを育成します。「多様な選択科目」では、進路の方向性に沿った科目を履修し、探究の種を見つけます。「探究」の成果を活かして、一人一人のニーズに応じた進路選択を実現します。

3年間の流れ

1年次

地域と連携した
「課題解決型学習（町田市探究）」



1学期

学生ファシリテーターによる進路説明会
現役大学生の夢や目標、学生生活などを直接聞くことで、進路選択の視野を広げ、高校生活の目標を立てる。



2・3学期

町田市探究（地域の協力団体と連携）
地域の課題に対して、協力団体と意見を出し合い解決策を考える活動を通して、課題発見・解決力を養う。

2年次 近隣の大学との 「高大連携（IBL Day）」

※IBL: Inquiry Based Learning (探究学習)



夏休み

夏の体験活動（地域の協力団体と連携）

町田市探究で関わった協力団体が取り組む活動に実際に参加し、地域の課題を肌で感じることで、課題発見・解決力や、多様な他者と協働する力を向上させる。

今注目されている「探究」の授業について

AIにできないこと。それは、地域特有の課題を発見することや、地域の実情を考慮しながら現実的な答えを導くことだと考えています。この考え方を身に付けるためには「多様な他者との協働」「探究のプロセス」が大切です。本校では、「町田市探究」「夏の体験活動」「IBL Day」「課題研究」を学習の中核に据え、これらの力を伸ばしていきます。



POINT

多面的・多角的な
視点の獲得

「探究学習の推進」で期待される効果

- 地域課題の発見・解決に取り組むことで、探究する力、課題発見・解決力、創造性を育成します。
- 地域や外部人材との交流や活動を通じて、コミュニケーション力や主体性、協働性を育成します。
- 探究活動の成果で、生徒一人一人のニーズに合致した多様な進路選択を実現します。

総合学科としての
特色ある学びや体験
「多様な選択科目」



地域と連携した
「課題解決型学習」



近隣の大学との
「高大連携」



総合型選抜・学校推薦型選抜に対応
書類審査 面接
プレゼンテーション 小論文等



探究活動を通して、
コミュニケーション力や、
主体性、協働性が
身につきます！

希望進路の実現へ

3 年次 多様な進路希望の実現
「課題研究（論文作成）」

2 学期



3 学期



課題研究（4000字以上の論文）

「キャリア教育」や「多様な選択科目」によって深めた知的好奇心に基づいて、「問い」を設定し、研究計画を立てる。



大学生との連携（NPO法人リトリト）

ここまで読んでみて、「自分にできるかな？」と心配になった方もいらっしゃると思います。大丈夫です。本校はNPO法人リトリトと連携しており、近隣の大学に通う大学生と共に学べる場を作っています。大学生は高校生よりちょっと先輩で、気軽に相談できる存在で、斜めの関係とも言います。そんな大学生が毎週のように学校に来て探究的な学びを手伝ってくれます。このパンフレット制作にも協力してくれています。



IBL Day（近隣の大学との連携）

大学に訪問し、興味・関心をもつ学問に直接触れることで、課題発見・解決力や調査・研究する力を養う。

3年間を通した探究活動

課題の発見・解決に取り組むことで、探究する力や創造性を高め、地域や外部人材と交流してコミュニケーション力や主体性、協働性を育てます。

3年間で学ぶ探究の授業を説明します！
実際に行われた活動を、体験者の感想を踏まえてまとめました！



1 年次

技術力・協調力を高める期間！



生徒自身が自らの進路を考えていくために、自分たちの「得意なこと」や「やりたいこと」がなぜ大切なのか、大学生や協力団体の方との対話や実践的な学習活動を通して考えます。

事前準備

学生ファシリテーターによる進路説明会

大学生から上級学校で学ぶことについて発表していただきます。大学生からリアルな話を聞くことで、自分たちの「やりたいこと」や「得意なこと」から更に興味関心の幅を広げていきます。また、これから自分たちの進路を考えていく上で必要な活動を具体的に考えていきます。



2 年次

見方・考え方を学ぶ期間！



2年次では、1年次で学んだ視点や考え方を活かして、体験活動や自身の将来にかかわる学問の探究に挑戦し、「多面的・多角的な視点」や「探究のプロセス」を身に付けていきます。



実際の活動

夏の体験活動

町田市探究で関わった団体が主催する活動に参加し、課題発見・解決力や、多様な他者と協働する力を向上させます。



テーマ 「富澤商店の材料と地域の食品を使ってパン作りをしよう」

学んだこと

体験当日は、地産地消をテーマに事前学習で生徒が考えた、町田産の食品を使ったパンのレシピを商品化するために、社員の方から助言を受けながら材料の配合や形などを決



めていきました。実現可能なレシピの制作に加え、話し合いをして、キャッチコピーや魅力的な商品説明を決定するなど、多くの人と協力して一つのものを作り上げていきました。

(協力団体名：株式会社 富澤商店・多摩大学)



探究の授業に協力する企業のメリットとは

同じ地域内にある学校と協力し合うことで地域貢献につながります。また、高校生などの若い世代と交流できる機会は少ないため、このような体験活動などを通して若い世代の価値観やニーズを学ぶことで、お店を利用してくれる人たちがどのようなものを求めているのかを知ることができます。



(協力団体名：株式会社 富澤商店)

学んだこと

協力する事の大切さ

活動を通して、人と協力する楽しさや大切さを学ぶことができました。また、この活動の裏に多くの大人の方々が動いてくれていたことに気が付き、改めて貴重な体験をすることができたのだと実感しました。



地域の中の課題を発見し、チームで資料を作成することで、協調性や技術力、課題発見・解決力を養います。

実際の活動

町田市探究（協力団体：多摩大学）

「町田周辺の企業に実践的課題解決を提案しよう」

町田周辺の企業を知り、SDGsを絡めた企業課題を発見・解決するための学習を行います。課題を解決するための提案資料をチームごとに作成し、企業に提案することで、仕事に必要な考え方を身に付けます。

テーマ 「富澤商店への提案」（つくる責任、つかう責任）

このテーマを選んだ理由 元々お菓子を作るのが好きだったので、製菓材料が売っている富澤商店に興味がありました。SDGsを絡めた企業課題の解決のための提案をすると知り、企業だけでなくその企業を利用している地域の人々のためになることしたいと考え、このテーマを選びました。



※IBL: Inquiry Based Learning (探究学習)

実際の活動

IBL Day × 課題研究

課題に対して仮説を立てて話し合いながら学習することで、多面的・多角的な視点を獲得し、課題を発見、解決する能力を養います。

テーマ 「なぜ日本ではマンガが人気なのか？」

このテーマを選んだ理由 このテーマを選んだ理由は、デザイン系の進路に進みたいと考えていたことや、漫画の人気の理由を探るとい、今後の自分の進路に近いものを感じ、さまざまな人の価値観や意見を知ることができるテーマだと考えたためです。



研究内容

日本では子どもから大人まで、多くの人が漫画を読んでいます。なぜここまで漫画が親しまれているのか、班ごとに仮説を立てて発表資料を作成しました。班員とお互いの情報をすり合わせ、分担しながら資料を制作していくため、他者とのコミュニケーションが大切になってきます。（協力団体名：相模女子大学）

発見した課題と解決方法 初めに、SDGsの様々な観点から富澤商店ではどのような工夫が行えるのか考えました。提案するにあたって、どのぐらいの年齢層に向けてなのかターゲットの設定を行い、具体的な案を出していきました。

発見した課題

日本の食品ロスが約500万tを超えている。

ラッピングに多くのプラスチックが使われている。

解決方法

賞味期限が近い商品専用のコーナーを作る。

紙製のものに変える。

…など

学んだこと

計画と実行の楽しさと大変さ

活動を通して、計画を立てて実行する楽しさと大変さを知ることができました。また、自分の意見だけでなく、複数人で話し合うことで新たな視点を手に入れることができました。

POINT

この活動を、2年次で実施する「夏の体験活動」につなげていくよ！



実際に立てた仮説

班の中で漫画に対しての印象や、漫画といえど何か、などの簡単な話し合いから、普通の漫画と違ったWebtoonと比べることで人気の理由がわかるのではないかと考えました。

問い 「Webtoonと漫画の違いは何か」

仮説 Webtoonは「見るもの」。
漫画は「読み込むもの」。

根拠 Webtoonは物語の進行よりも鮮やかな色彩が目を引くから。



学んだこと

答えを導き出す力がつきました

仮説やテーマに対してどのように向き合えば納得のいく答えにたどり着くのかを考え、自分なりの答えを導き出す力がつきました。また、自分の進路について真剣に考え、知識をつけるいい機会になりました。

3 年次

在り方・生き方を考える期間！

まとめ

課題研究（論文作成）

多様な選択科目、町田市探究、IBL Dayで得られた経験や考え方をもとに、自分の進路に沿った内容のテーマを自分で決めて論文を書いていきます。インタビューやアンケートなどを自主的に行い、根拠のある主張を導き出して4,000字以上の文章にしていきます。

3年間の活動で得た経験を活かして発表していくよ！



町総生の選択授業紹介

看護や保育、介護や栄養、服飾や調理など進みたい進路に合わせて、生徒一人一人が自由に選ぶことのできる時間割です。

実際に看護系と保育系の生徒2人に看護と保育の授業の内容や、探究活動についてのインタビューを行いました！



探究を通じて看護を研究

— 看護や介護を基礎から学び、知識や技術を身に付けることができる —

選択授業

1年次の頃から将来は医療に関わる仕事に就きたいと思っていたので看護系を選びました。みんなで協力し合いながら楽しく実習を行って、普通科高校では学べない看護や介護の基礎知識や技術などを学ぶことができました。高校生のうちから学んでおけば大学や専門学校でも活かすことができ、強みになります。

Elective subjects 選択授業 1

基礎介護実習

プリントを使って介護の専門的な言葉や知識を学んだり、実際に杖を使った歩行方法を習い校内を歩いたり、約150分の受講で認知症介護研修の修了証を取得しました。介護施設に訪問する授業もあり、現場で働く人とお話しできました。



地域の方や様々な団体の方とたくさん交流し、地域の課題について探究する事の重要性を感じました！

看護系

3年
石井 優春 さん

Elective subjects 選択授業 2

基礎看護実習

病院にあるようなベッドでベッドメイキングの練習や、体位変換法のやり方を学びました。血圧計と聴診器を実際に使って血圧を測る実習や、車いすを使って実際に校内を回る実習もありました。



Inquiry subjects 探究授業

夏の体験活動

2年次の探究授業では、忠生公園で近くに住む高齢の方々と体を動かし、脳を使ったゲームをしました。近年学生と高齢者が関わりあうことは減っているのですが、ゲームを通して高齢の方と交流をできる機会があり良かったです。



課題研究

問い なぜ日本・アメリカ・中国で出産方法に違いができたのか

この「問い」を選んだ理由

看護や助産に関わる仕事と日本と海外の違いについて興味があり、上級学校でも役立つことができると考え、この問いを立てました。



この研究で分かったこと

日本では自然分娩、アメリカでは無痛分娩、中国では帝王切開が普及しているのは、国の制度や文化の影響、人々の価値観の違い、医療機関の人員不足やコストの問題などによるものでした。また、結論として日本における無痛分娩の普及の低さを問題点とし、自身の思いや考えを深め、問題点の解決のために日本が取り組んでいることを調べてまとめ、学ぶことができました。



出産の世界的な課題に触れ、今後も継続して考えていきたいです！

石井さんオリジナルのカリキュラム（看護・医療系）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
2年次	必修																			選択科目									
	論理国語 (前)	公共		日本史探究		生物基礎		体育		保健	英語コミュニケーションⅡ			日本文化	人間と社会	探究	数学Ⅱ			基礎看護実習		基礎介護実習		心理					
3年次	必修														選択科目														
	論理国語 (後)	地理総合		体育		英語コミュニケーションⅢ			探究		化学基礎		実用国語		ハンドクラフト		生物、生物基礎演習、数学B、応用数学Ⅰ・A、福祉基礎...など												

保育の現場を研究

— 実習を通して様々なことを学び、成長することができる —

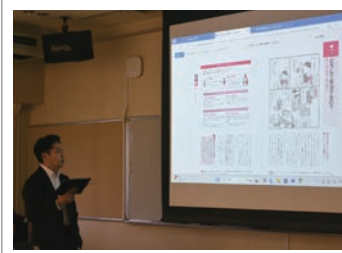
選択授業

幼い頃から子どもと関わる事が多く、成長について学び、近くで支えていきたいと考え、選択しました。子どもたちと関わっていく中で、高校生である私たちが子どもたちの成長のためにできる取り組みを考え、実行することができました。5歳児にSDGsを伝えるために、ランドセルの色を例に挙げて男女関係なく好きな色を選んでいいと、ジェンダー平等をわかりやすく伝える取り組みを行いました。

Elective subjects 選択授業 1

心理

心理では、自分のストレス状況を知り、得意なストレス対処法を学びました。感情と認知の関係や心理テストを通じて自己理解を深め、心の健康に役立つ知識を身に付けました。



Elective subjects 選択授業 2

保育基礎

保育基礎では、実習で子どもとの関わり方や保育士の基本を学びました。また、手遊びや歌の実技にも取り組み、座学では発達や保育所等の役割についても学びました。



Elective subjects 選択授業 3

保育基礎演習

保育基礎演習では保育基礎の授業をもとに、年齢や発達にあわせた取り組みの知識を生かして、おもちゃを作成しました。また、生徒を子どもに見立てて保育指導を行いました。



とことん追求して研究できるのが、探究学習の面白いところです！

保育系

3年
鮎川 瑞希 さん

課題研究

問い

なぜ赤ちゃんの発達には脳を刺激する声かけが必要なのか

この「問い」を選んだ理由

保育基礎の授業で保育について学ぶ中で年齢や発達に合わせた「声かけ」について興味を持ち、保育者になったときに役立つ知識を得たく、テーマに設定しました。



この研究で分かったこと

赤ちゃんの成長は五感と強い繋がりがいることが分かりました。五感を刺激することは、言語習得にも繋がるため、赤ちゃんには沢山声をかけてふれ合うことが大切だと分かりました。また、文献調査や実際にインタビューを行うことで、保育方法などの様々なことを学ぶことができました。子どもの発達には個人差があり、一人一人に配慮をしていく大切さを感じました。保育園では子どもの五感を刺激する遊びを多く取り入れていることが分かったので、市販のおもちゃなどとはどのような刺激を与えているのかを調べてみたいと思いました。

五感について、もっと追求して研究してみたいなりました！



鮎川さんオリジナルのカリキュラム（保育系）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
2 年 次	必修																			選択科目									
	論理国語 (前)	公共		日本史探究	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	日本文化	人間と社会	探究	実用国語	福祉基礎	心理	器楽	保育基礎													
3 年 次	必修														選択科目														
	論理国語 (後)	地理総合	体育		英語コミュニケーションⅢ	探究		保育基礎演習(4)	現代文演習基礎	器楽演習		ソーイング基礎、ハンドクラフト、デザイン、華道...など																	

探究活動パンフレット(本誌)の作成を通じて学んだ事

コミュニケーションの大切さを学びました

3年 永井彩希

3年間を通じた探究活動の紹介ページを担当しました。どんなデザインにしたら伝わりやすいパンフレットになるのかこだわって作成しました。デザイン面では、みんなが見てくれるようなカラーとして明るい青と黄色をテーマに選び、かわいらしい雰囲気を出すためにやわらかいイラストを使用しました。私らしさを出しつつも、親しみやすいページを作れるよう心掛けま



した。しかし、その過程で感じたのは、他の人とのコミュニケーションの大切さです。コメントや意見を調整しながら、みんなで一つのものを作り上げる難しさを実感しました。

また、中学生とその保護者が読みやすいように、どの程度話し言葉を使うのか、あるいは報告書として硬い表現にするのか非常に悩みました。レイアウトについては、企業の方に頼りがちになってしまったため、もっと勉強して伝わるレイアウトをこれからも学んでいきたいです。



インタビュー通じて多くの知識を得る事が出来ました

3年 堀越彩珠

町田総合高校の特徴である「自分で設定できる授業カリキュラム」のページを担当しました。看護系や保育系に進む生徒にインタビューして、なぜそのようなテーマを選択したのかを詳しくまとめました。当初は何を質問すればいいのか戸惑うこともありましたが、インタビューを進める中で、「このことをぜひ書きたい」という思いが強くなり、その生徒の探究内容も詳しく調べるようになりました。

また、座学よりも実践的な部分を強調したいと考え、記事にする際はその点に配慮しました。この過程を通じて、自分自身の理解も深まり、関連する論文を読むことで知識も増えていきました。

デザインに関しては、実際にパソコンでページを作ることが難しかったです。しかし、今後は造形を学びながら、もっと良いデザインが作れるようになりたいと思っています。この経験を通じて、情報の伝え方やデザインの重要性を強く感じました。



大学生から

町田総合高校の探究の時間は、大学生が高校生をサポートする点が大きな魅力です。「町田市探究」では、パソコンの操作方法や、資料のまとめ方について相談に乗りました。「学生ファシリテーターによる進路説明会」では、高校生に自分の大学生活についてスライドを用いて説明し、高校生活と大学生活の違いについて理解を深めてもらいました。大学生の存在は、生徒と年齢が近く、身近に感じられる存在からのサポートが受けられる点でメリットがあると感じます。



また、私が所属する大学のゼミは「町田市探究」や「夏の体験活動」のプログラムを提供しているので、ゼミ生である私が高校生と企業を繋ぐ役割を担いました。大変でしたが、高校生だけでなく、私たち大学生も成長できる場になっていると思います。

